2025 年度本学学生の進路・就職状況について

名和　直美

2025 年度の卒業生は 1,499 名、この学生たちの進路・就職状況について、以下に報告する。

1．進路・就職状況

リクルートワークス研究所の 2025 年 4 月調査によると、2026 年 3 月卒業の大学生・大学院生対象の民間企業求人倍率は 1.66 倍であった。新型コロナウイルス感染症による 2022 年卒者の求人倍率低下があったが、その後昨年度の 1.75 倍まで 3 年連続で上昇してきた求人倍率がやや低下した。企業の従業員数によって、また業種によって求人倍率の差は大きい。調査によってばらつきはあるが、複数の調査会社による報告で、3 割から 5 割の企業が採用計画に対して未達となったとの回答が出ている。学生から見て安定していると思えたり、働きやすいであろうと思えたりする内定先を求めての就職活動があり、売り手市場の下で就職活動が長引いているものと思う。

2025 年度の卒業生 1,499 名のうち就職を希望した者は 1,298 名（86.6％）でそのうち就職決定者は 1,294 名、就職希望者に対する就職決定率は 99.7％となり、前年度から 0.3 ポイント上昇した。文部科学省・厚生労働省の共同調査によると、今春の大学卒業者の就職率は全国平均で 98.0％、前年度比で増減なしとなったが、女子に限定すると 98.7％となり、2 年連続で前年度を 0.2 ポイント上回る結果となっている。

大学院進学者は 117 名（7.8％）であった。また、「その他」と分類される者の中には、次年度に公務員・教員採用試験の受験をめざす者、留学予定の者等が含まれている（いずれも令和 8 年度学校基本調査確定値、表 1 を参照）。

就職先を業種別に見ると、2025 年度は「情報通信」が最も多く、以下「サービス」、「金融・保険」、「製造」、「教育・学習支援」と続いている。職種で見ると、教員、栄養士、設計など、学科によっては学びを生かした専門職に就く卒業生も多い一方で、多くの学生が営業、事務、SE と偏りなく幅広い職種を選択している。

2025 年度の就職活動は前年度よりさらに早期化した。先に述べた企業の採用計画に対する充足率の点から、特に大企業において採用活動の前倒しが起き、内定を出す時期も昨年度より早い時期から動いている。学生もそこに対応するため、3 年次前期にはすでに早期選考を見越してインターンシップ先を検討し、エントリーシート対策や面接練習など就職活動本番と同じような就職相談の割合が増えている。

就職活動の際の就活エージェントの利用も一般的になった。アドバイザーからの支援を受けながら、勧められる求人情報によって効率の良い就職活動ができるとして現代の学生からの需要は高い。ただし、エージェントから提供される求人情報の内容、採用選考への参加強要、内定後のオワハラなど、学生側の不満やトラブルになるケースも聞かれており、学生に注意喚起を強めた。

学生の就職活動に生成 AI の利用が増えたことも顕著である。インディードリクルートパートナーズリサーチセンター「就職白書 2026」によると、2026 年卒の学生が就職活動において生成 AI を使用した割合は 63.3％で、2025 年卒の学生より 28.8 ポイントと大幅に増加した。昨年度まで多かった自己 PR の作成やエントリーシートの添削など応募書類作成への利用以外に、自己分析、面接対策などキャリアカウンセラーとの対話によって向上させていた部分においても生成 AI の利用が広がっており、学生の生成 AI との向き合い方が反映されているようにも見える。

２．今後の展望

不安定な世界情勢や生成 AI の普及により採用環境が見通せない中、企業が「変化に対応できる人材」を求める姿勢は一貫している。生成 AI の普及に伴い、エントリーシートのみでの評価が難しくなっており、面接やインターンシップを通じた対話による見極めがこれまで以上に重視されている。一方で、就職活動の早期化が進み、学生にとっては、自己分析や企業理解のための十分な準備期間を持てないまま就職活動を始めてしまう。さらには今後広がるとされるジョブ型採用に対応するには、職種理解と専門性への志向、自身のスキルを確認し高めていく期間を確保しにくいと思われる。

こうした状況下だからこそ、実際の業務を体験できるインターンシップへの参加は、学生が自らの将来を主体的に考え、キャリアを切り拓くための貴重な「成長の場」として、ますます重要性を増している。企業側には負担が伴うものの、学生はキャリアの第一歩を正しく選択し、企業は入社後に戦力となる人材を見極めるためにも、就業体験を重視したインターンシップの積極的な実施を期待したい。

学生にも様々な活動に主体的に参加し、そのリアルな経験から個々の持つ特性と可能性に気づき、伸ばしていってほしい。

（なわ　なおみ　キャリアライフセンター事務課長）

表－１　2025 年度卒業生　進路状況

令和８年度学校基本調査確定値（5 月 1 日現在）

学部	学科	卒業者数	就職希望者数 就職希望率	就職者数 就職率①	就職率②	大学院進学者数 大学院進学率	大学・短期大学・専攻科・別科進学者	その他
家政学部	児童	108	104 96.30%	104 97.20%	100.00%	1 0.93%	0 0.00%	3 2.78%
	食物	77	70 90.91%	70 100.00%	100.00%	7 9.09%	0 0.00%	0 0.00%
	住居	90	57 63.33%	57 91.94%	100.00%	28 31.11%	0 0.00%	5 5.56%
	被服	96	83 86.46%	83 89.25%	100.00%	3 3.13%	0 0.00%	10 10.42%
	家政経済	85	83 97.65%	83 98.81%	100.00%	1 1.18%	0 0.00%	1 1.18%
	小計	456	397 87.06%	397 95.43%	100.00%	40 8.77%	0 0.00%	19 4.17%
文学部	日本文	138	124 89.86%	123 91.79%	99.19%	4 2.90%	0 0.00%	11 7.97%
	英文	136	123 90.44%	123 91.79%	100.00%	2 1.47%	0 0.00%	11 8.09%
	史	123	104 84.55%	103 89.57%	99.04%	8 6.50%	0 0.00%	12 9.76%
	小計	397	351 88.41%	349 91.12%	99.43%	14 3.53%	0 0.00%	34 8.56%
人間社会学部	現代社会	89	85 95.51%	84 95.45%	98.82%	1 1.12%	0 0.00%	4 4.49%
	社会福祉	93	91 97.85%	91 100.00%	100.00%	2 2.15%	0 0.00%	0 0.00%
	教育	94	90 95.74%	90 98.90%	100.00%	3 3.19%	0 0.00%	1 1.06%
	心理	68	49 72.06%	48 80.00%	97.96%	8 11.76%	0 0.00%	12 17.65%
	文化	116	103 88.79%	103 90.35%	100.00%	2 1.72%	0 0.00%	11 9.48%
	小計	460	418 90.87%	416 93.69%	99.52%	16 3.48%	0 0.00%	28 6.09%
理学部	数物情報科	92	75 81.52%	75 96.15%	100.00%	14 15.22%	0 0.00%	3 3.26%
	化学生命科	94	57 60.64%	57 93.44%	100.00%	33 35.11%	0 0.00%	4 4.26%
	小計	186	132 70.97%	132 94.96%	100.00%	47 25.27%	0 0.00%	7 3.76%
	合計	1,499	1,298 86.59%	1,294 93.63%	99.69%	117 7.81%	0 0.00%	88 5.87%

就職率①：「就職者数」／「卒業者数」－「大学院進学者数」－「大学・短期大学・専攻科・別科進学者数」

就職率②：「就職者数」／「就職希望者数」

その他　：専修学校、外国の学校等進学者、教員・公務員受験準備等

端数処理の関係で合計が 100％にならない場合がある